

第3回府中市都市・地域交通戦略（分倍河原駅周辺地区）推進協議会 会議録（要旨）

■開催年月日 令和4年7月22日（金） 午前10時から午前11時まで

■開催場所 府中市役所府中駅北第2庁舎3階会議室

■出席委員等 11名（名簿順）

森本章倫委員、大門創委員、今佐和子委員、松木拓委員、小島朋己委員、
高橋栄二委員、照井安則委員、榎本聡委員、篠田貴宏委員、早田俊介委員（代理：
安井正太郎 氏）、野口勉委員

■事務局

古田地域安全対策課長、塩澤道路課長、松本計画課交通企画担当主幹、山下部計画
課交通企画担当主査、日原まちづくり拠点整備推進本部長兼分倍河原駅周辺整備担
当主幹、川村分倍河原駅周辺整備担当主査、賀戸分倍河原駅周辺整備担当主査、
増田主任、鷹野事務職員、関事務職員

■欠席委員 3名

堀木智浩委員、小池毅委員、芝寄一郎委員

■傍聴者 2名

■議事次第

1 開会

2 議題

- (1) 都市・地域交通戦略の見直しについて
- (2) 駅周辺における整備前後の歩行者・自転車動線変化の想定について
- (3) まちづくりにおける地元との連携について
- (4) 都市・地域交通戦略推進協議会のスケジュールについて

3 その他

■会議概要

1 開会

【事務局】 事務局からお知らせいたします。現在、新型コロナウイルス感染症の陽性者が再び増加してきている状況でございます。本協議会におきましても、感染拡大防止の観点から時間短縮に努めてまいりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。それでは、開会に先立ち府中市まちづくり拠点整備推進本部長よりご挨拶申し上げます。

【本部長】 本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より分倍河原駅周辺地区のまちづくりにご理解とご協力をいただき改めて感謝申し上げます。さて、本市では市の最上位計画である総合計画が、今年度より第7次としてスタートし、分倍河原駅周辺地区のまちづくりは、引き続き総合計画において重点的かつ優先的に実施すべき「重点プロジェクト」に位置付けられております。また、今年度は、組織改正も行われ、昨年度まで都市整備部地区整備課として、取り組んでおりましたが、まちづくり拠点整備推進本部の分倍河原駅周辺整備担当に変わり、新たな部として、さらなる推進を図ってまいりたいと考えております。本市といたしましては、同地区のまちづくりを推進する上で要となる「都市・地域交通戦略」に掲げる施策を着実に実現するため、委員の皆様より貴重なご意見を賜りたいと存じますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 本協議会について、一部の委員について人事異動による変更がありました。本来ならば、皆さまから自己紹介をいただくところですが、時間短縮のため、お手元の委員名簿に代えさせていただきます。また、事務局の職員につきましても、お手元の席次表に代えさせていただきます。

なお、事務局からお願いがあります。議事録作成のため、本協議会の録音や記録用の写真撮影をさせていただきますので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。また、分倍河原駅周辺まちづくりに係る委託事業者、株式会社首都圏総合計画研究所の担当者も本協議会に同席していますので、併せてご了承くださいませようお願いします。

以降の議事進行につきましては、会長である森本委員にお願いしたいと思っております。

2 議題

【会 長】 ただいまから、第3回府中市都市・地域交通戦略推進協議会を開会いたします。まず、本日の委員の出席状況について事務局から報告をお願いします。

(事務局より出席状況の報告)

【会 長】 続きまして、傍聴者の有無について事務局から報告をお願いします。

【事務局】 本日の会議につきましては、7月11日号「広報ふちゅう」にて告知し、2人の傍聴希望者がおりました。

【会 長】 傍聴希望者がおりますので、傍聴を許可してよろしいでしょうか。それでは、傍聴者の入室までしばらくお待ちください。

(傍聴者の入室)

【会 長】 それでは議事に入りたいと思います。お手元にお配りした次第に従い次第2の議題に入ります。今日の進め方ですが、(1)から(4)まで事務局から一括して説明していただき、その後意見交換に入ります。では事務局から説明をお願いします。

(議題(1)～(4)について、配布資料に基づき事務局より説明)

【会 長】 ありがとうございます。それでは委員の皆様から質問や意見をお受けしたいと思います。

【委 員】 今回は実施プログラムにおける各ステップの工程の見直しという形で資料を出していますが、この推進協議会場で承認するという位置付けなんでしょうか。まずその点を確認させてください。

【事務局】 交通戦略については、推進協議会において、PDCAサイクルを用いて施策の進行管理や評価・見直しをしていくものとされていますので、今年度2回目の推進協議会をもって実施プログラムの見直し案をいただくことを予定しています。

【委 員】 ここで議論をして、他の場で承認する機会があるという理解でよろしいか。

【事務局】 資料6に今後のスケジュールを示しています。今回は各施策のスケジュールにおける見直しの考え方や方向性を市から提案させていただきました。本推進協議会にて、実施プログラムにおける見直しの方向性について議論をしていただき、推進協議会の考え方として今年度市に答申をいただければと思っています。

【委 員】 本協議会において、本日の資料を概ね答申できるかという話だと理解しましたが、資料を見る限り、かなり工程が伸びているところがあります。もう少し丁寧に、それぞれどのような理由なのかをお示しいただかなければ、我々としてもこれが良いのか悪いのか、判断がつかないと思います。恐らくこの推進協議会で細かく話すことではなく、事前に担当に相談いただくなり、色々な方法を検討していただかなければならないと思います。

【会 長】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委 員】 同じく全体的に遅れ気味ということを感じました。大体が事業者や府中市が担っている工程で、市役所のリソースも限られていると思いますので、あと4年でどれだけできるのかと思いながら聞いていました。全体の中のどの施策に優先的に力を入れており、これは少し延びても仕方がないかもしれないという、メリハリが見えてくればと思います。全て大切な施策だと思いますが、今回は少し優先順位を付けてもらえればと思います。

【事務局】 次回資料にて優先順位を含めて提示させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【会 長】 恐らく重点政策という位置付けになると思いますが、それもそれで良いかは次回議論することになると思いますので、素案の作成をお願いします。

【委 員】 資料3の評価指標ですが、歩行者交通事故の件数は5年後の目標が0

件であり、現状については5年平均の数値が載っています。例えば5年後の数値も5年平均で取るという考え方であれば、今年から0件にしていかなければならないと思います。設定の考え方について、確認をさせていただきたいです。また、設定された他の指標や目標値につきまして、「歩きやすい37%」「3.5%以上の増加」など、根拠を整理した資料を次回お示しただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

【事務局】 最初の質問の歩行者交通事故の件数については、委員のおっしゃるとおり今年度から0件でなければ5年後も0件にはならないこととなります。今年度は実施プログラムの見直しということになっていますが、来年度に評価指標を測定した後、委員の皆様にも評価指標についても議論させていただきたいと思っています。

2つ目の質問の、「歩きやすい37%」の根拠については、平成29年に実施した利用者ヒアリングにおいて「とても歩きやすい」「歩きやすい」と回答した人の割合が約31%で、この数値が計画策定時のものとなっています。10年後については、「歩きにくい」「とても歩きにくい」と回答した方約70%の半分、約35%の方が歩きやすいと感じられることを目標として、最初の31%と35%を足して約65%以上とすることを目標値として設定しました。

商店街の歩行者数の「3.5%以上の増加」につきましては、南側の大型商業施設の1日平均客数が約12,000人であり、そのうち約500人を商店街へ誘導することにより、商店街の歩行者数を10%以上増加することを目指しているということです。中間段階では調査実施の途上であることから、人口増加の影響のみを考え、約7%の半分である3.5%を増加することとしています。

【委員】 ありがとうございます。

【会長】 今説明された資料3の数値の根拠は、きちんと整理して資料として残していただきたいのがまず1つです。それから目標値については2つ考え方があり、過去の数値からここまでは実現できるだろうというフォアキャスト的な考え方と、とにかく事故はゼロのほうが良いという理想像から戻していくバックキャスト的な考え方です。どういう考え方でバックキャスト、どういう考え方でフォアキャストを採用したのかということも併せて、説明資料に追記していただきたいと思います。

ちなみに交通事故でいえば、私は国の第11次交通安全基本計画をお手伝いしましたが、政府の目標値としては5年間で25%程度、国連によるDecade of Action for Road Safety 2021-2030では、2030年までに半減と言っています。国の基準に合わせるならば、10年後には半減という数値が望ましいだろうと思います。また、5年平均ではなく、10年後の数値として半減することが基本的なスタンスという気がしています。ただ、交通事故は非常に少ない数値なので、1時点をみると偶然ゼロだったということもあり得ますので、参考数値として5年平均値を載せることは良いと思いますが、目標としては少なくとも5年後にどうなるのかという数値でも良いと思います。資料3の数値については、後日各委員から細かいご意見をいただきながら修正していただければと思います。

【委員】 資料3の①の「歩きやすい」と感じている人の割合ですが、来年度計測するためにアンケートを実施されると思いますが、その際、属性もし

っかり見るようにお願いしたいと思います。今「歩きやすい」と答えている人が、例えば中学生や高校生など若い元気な人たちのみであり、お年寄りや車椅子、ベビーカーを利用している方は皆歩きにくいと答えている可能性はなきにしもあらずのため、属性とともに集計結果を教えてくださいいただければと思います。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。

【会 長】 ご意見を踏まえて、検討していただきたいと思います。

【委 員】 資料2では、ステップ1の期間を少し長めにしたいという説明でした。恐らくハード整備について、鉄道事業者と府中市の間で協議しているところが、概ねこの辺りでめどが付くということからすると、確かに協議前に立てたステップ1の予定からは遅れているが、逆に言うところ動き出すと全てが動きやすくなると思われ、非常に合理的ではあると個人的には思いました。

もう1点、資料5のまちづくりにおける地元との連携は、非常に重要な話だと思います。今ここで協議しているのは、関係者の意見を踏まえながらも基本的にハード整備であり、行政あるいは鉄道事業者が主体となって進めていくものです。ただ、このハード整備によってにぎわい軸や溜まり空間ができることにより、これから商店街や地元住民に対していろいろな効果が出てくると思います。また、令和7年度でステップ1のハード整備が進んだ際に、次に重要になってくるのがステップ2です。ここでは、商店等の地元が中心となって考えていくようなソフトな取り組みと、行政・鉄道事業者が中心となるハード整備が、両輪になって動いていくことで、より魅力ある分倍河原駅周辺地区が形成されていくと思います。こちらについても非常に重要なものと感じますので、関係者の皆さまにはご協力のほどをお願いしたいと思います。なお、資料5について、もし差し支えなければ現在の状況をもう少し詳しく説明いただける資料を次回可能な範囲で提供いただければと思います。

【事務局】 地元との調整の内容については、特に今年度はどのような議論をしたのかを含め、オープンハウスでの意見も掲載した資料を用意し、次回議論いただければと思います。

【会 長】 先ほどの資料4の歩行者・自転車交通量の将来想定には当然数値が入っていません。一方で資料3には、例えば商店街の歩行者交通量について10%増加することを目標とするという記載があります。現状よりも10%程度数値が上がった時にどのような歩行者交通量になるのかというところをチェックすることが必要だと思っています。加えて、歩行者交通量が増えるといわれている商店街の中を、自転車が押し歩きをすることが想定されているとなると、さらに歩道部分の歩行者密度がタイトになり、サービスレベルがかなり低下するのではないかと危惧しています。そういうことも踏まえて、にぎわいのある歩きやすい道になるのかどうかをチェックしていただきたいと思います。それをもって、将来計画が良いか悪いかという議論を次回以降にできればと思っています。場合によって今の計画では少し歩道部分が足りないとなるのであれば、歩道が若干広がるようなことがあるのかもしれないし、自転車の押し歩きも含めて、地域の住民と皆で考えていくことが必要かと思っていますので、ぜひとも数値的な検討も併せて次回以降にご検討いただければと思っています。

【事務局】 今回いただいたご意見を踏まえ、具体的な考え方やそれを数値で表すという部分で、改めて市としても分かりやすい資料の作成に努めていきたいと思えます。特に指標の部分における将来の目標値については説明が不足していましたので、その点についての整理もしっかりとさせていただきます。

また、事業につきましては、市、鉄道事業者、地元が連携して進めていくことが重要になりますので、まずは市として基盤整備というハード整備について、鉄道事業者と協力しながら進めていきます。その上でこのまちづくりにおいては、市として市民協働を進めていますので、地元へ情報提供し、ご意見・ご協力もいただきながら、連携して取り組みを進めていきたいと思っています。

【会 長】 ありがとうございます。まだお時間ありますのでいかがでしょうか。

【委 員】 会長からもご指摘があったように、資料3の将来の商店街の歩行者数についてです。資料4の右上側の図にありますように、溜まり空間の整備によって商店街の店舗数の3分の1にあたる約30店舗がなくなってしまいます。そのため将来の商店街は、溜まり空間の北側だけになってしまいます。それでいて歩行者数が10%増加するのではないかというのは、少し疑問に感じるところです。

【事務局】 この10%の増加につきましては人口の増加を含んでいるところです。確かに溜まり空間の整備によって店舗が転出となる一方で、溜まり空間と南北自由通路の整備により、商店街から駅南側商業施設までを結ぶにぎわい軸が形成され、駅前も開けた空間になることで、分倍河原に目的を持って来て下さる方が増えるようなまちを目指し、こうした目標も設定しています。また、溜まり空間を活用したにぎわいづくりにつきましては、商店街とも一緒に考えていきたいと思っています。

【会 長】 溜まり空間の整備によって店舗が少なくなってしまうというのは、商店街の方々と合意を取りながら進めていることだと思えますが、代替する店舗を造るなどそういう話も同時に進められていると理解して良いですか。それとも溜まり空間の部分の店舗が全てなくなってしまって、北側部分だけになるイメージなのでしょうか。

【事務局】 溜まり空間や自由通路等の基盤整備については用地買収方式で、通常の道路整備と同様に転出を基本とした考え方で進めさせていただく予定です。その関係で、溜まり空間に存在する店舗については、溜まり空間を整備することで確かに転出となってしまいますが、現在まちが抱えている大きな課題として、建物が非常に密集した状況にあるという防災の課題、またこの地域特有の府中崖線による高低差の課題があります。現在は駅の改札が一番低い場所になり、バリアフリー対応ができていないという課題を解決するために、溜まり空間や自由通路の整備を市としては考えています。店舗が転出となる部分もありますが、まち全体を考えた時には、この整備をすることでより効果を上げられる取り組みにつながられるような協議を、地元とともに進めていきたいと考えています。

【会 長】 今のご説明でよろしいでしょうか。

【委 員】 やはりそれだけの店舗がなくなってしまうのは、かなりのデメリットだと思えますので、もう少しコンパクトにはできないものかと個人的には思っています。

【会 長】 ここで議論してすぐにどうこうなるようなものではありませんが、引

き続きご議論いただきながら、できるだけ皆さんが幸せになるような方向性を取っていただきたいというのが本協議会としての意見になるろうかと思います。

【委員】 資料4の自転車動線に関して、踏切の閉鎖と東西自由通路の整備により商店街に自転車が多く流れていくのではないかとということでした。そうした交通量の増加に対する対応策もあったと思いますが、駅前における放置自転車の対策等も必要になると思いますので、自転車自体が駅前に入ってこないようにする施策も今後検討が必要だと思います。

【事務局】 委員がおっしゃるように駅中心部には自転車をあまり通行させないように、歩行者中心のまちづくりを進めています。資料1、資料2の施策番号2-3「南北自由通路等における自転車押し歩きを促進」において地元で意見を伺いながら、対策の方向性として検討していきたいと思っています。

【委員】 自転車から降りてはいるが、押し歩きだけだと自転車自体は入ってきてしまうため、交通量自体はそれほど減らないと思います。初めから自転車が駅前に入ってこない施策も議論していただきたいと思います。

【会長】 自転車の押し歩きだけでなく、2-1「分梅通りと市道4-139号における自転車走行空間の確保・明示」、2-2「自転車駐車場の移転・再配置」で示すように、外周道路を整備して自転車を回していく、あるいは駐輪場の再配置の計画に今のような考え方を入れていくなどしていく必要があると思います。自転車の押し歩きだけでなく、周辺の道路ネットワークと合わせて自転車の適切な配分を考えるということになると思います。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。それでは、皆さんから質問や意見がありませんので、今日はこれで議題を終わらせて、議事を進めさせていただきますと思っています。

3 その他

【事務局】 事務局から次回の開催についてお知らせします。次回の開催につきましては、令和5年3月頃を目途に開催する予定となっております。

【会長】 ありがとうございます。今年度2回目の協議会を3月ごろに開催して、その結果を市に答申という形で上げるという予定ですか。

【事務局】 はい。

【会長】 色々と課題もいただきましたので、場合によっては少し早めにやられたほうが良いとも感じますが、ぜひ関係各位と調整しながら進めていただきたいと思います。数値を出すということはある意味エビデンスを示すこととなりますから、場合によっては数値が独り歩きしないような説明文も要ると思います。その辺も留意しながら次回に向けて資料作成していただければと思っています。

本日全体を通して何か言い忘れたことはありますか。あるいは報告事項でも構いません。

【委員】 資料の作り方についてですが、資料5の地元との連携の表の中に、推進協議会についても掲載することはできませんか。推進協議会と地元との検討の場がどのように関連付けられているのか、もう少し分かりやすくければと思いますので検討いただければと思います。

【会長】 ありがとうございます。他にご意見ありますか。

- 【委員】 先ほどから議論として出ていますように、基盤整備によって店舗がなくなる、あるいは駐輪場を配置して、そこで自転車を止めると自転車や人の流れも変わります。その意味では、資料4の将来の歩行者・自転車の変化について、現在は定性的な分析ですが、次年度以降の調査等を踏まえて定量的な結果が得られていけば、それが商店街との協議にも生かされていくと思います。そうした部分も含めて資料作成を検討いただけるとありがたいです。
- 【事務局】 ご意見ありがとうございます。資料作成に生かしていきます。
- 【会長】 ありがとうございます。他にご意見ありますか。
- 【事務局】 1点だけご説明させていただければと思います。先ほど資料5に、この推進協議会の情報も掲載してほしいという意見もいただきました。市としては、ハード施策に関する「都市・地域交通戦略」を策定していますが、これを踏まえ、ソフト施策を含めた「まちづくり基本計画」を策定し、ハード・ソフトを含めた考え方に基づいて、地元と協議をしながらまちづくりを進めています。その考え方も落とし込むことにより、市の考え方を整理した上で、地元との関わり方も含めてご説明できればと思っています。今日の資料の中には市の考えているハード・ソフトを含めたまちづくり基本計画の内容が不足していたので、それも今後お伝えできればと思っています。
- 【会長】 ぜひ、ソフトを含めて総合的な視点で皆さんに見ていただきながら、最終的に答申する形を取っていただきたいと思います。それでは、以上をもちまして府中市都市・地域交通戦略推進協議会を閉会させていただきます。

以 上